

## 台中日本人学校におけるICT活用の状況

本年度の研究主題は、主体的・対話的で深い学びをめざした、授業展開の工夫と学びの連続性の保障～自分の考えを表現し、学び合う学習集団の育成～である。

本校児童・生徒の実態として「聞く」力の定着が課題とされてきており、それは「主体的・対話的で深い学び」を達成するために必要不可欠な力であるため、「聞く」力の定着・向上が火急の課題となっている。その課題を解決するためにICT活用を研修の柱の一つとした。

### 1. パワーポイント・デジタル教科書の活用

各教室にプロジェクター（小3はテレビ、小6はBIGPAD）が設置されているため、パワーポイントでの教材提示やデジタル教科書による指導が簡易である。この恵まれた環境を、特に算数や国語などで有効に活用している。

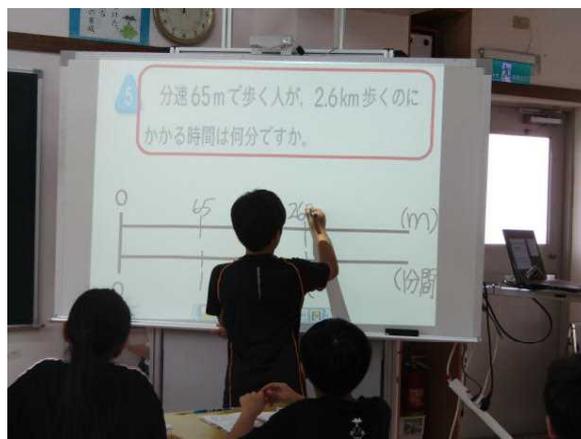
画面を繰り返して表示したり、ポイントを拡大したりすることで、低位の子や日本語支援の必要な子に対して有効な手立てとなっている。



中学部の道徳の様子



小学部1年の国語の様子



小学部6年の算数の様子



小学部4年の算数の様子

## 2. iPadの活用



小学部6年の算数一人一台使うことができる環境である。児童・生徒も扱いに慣れており、日常的に活用できるツールの一つとなっている。



小・中学部とも、各教科・道徳・特別活動など、あらゆる場面で活用しており、個人思考を充実させたり、効果的な対話活動を組織したりして、深い学びに繋げている。

## 3. ラジカセ等の活用

本校では、朝8時10分から8時25分までを「朝学習」の時間として位置づけている。月・水は国語、火・金は算数を基本としているが、その際に全校での合唱の時間を設けて、本校の音楽担当教諭が作詞・作曲した歌や、音楽で指導している歌を歌っている。これにより児童・生徒の語彙を増やしたり、日本語の発音に耳慣れさせたりしている。

さらに「朝学習」の時間に取り組んでいる「詩や俳句・短歌の暗唱」の際にも効果的なツールとなっている。



また国語や日本語の授業では、繰り返し範読を聞いたり、自分たちの音読や発表の様子をその場で再生したりすることで、正しい発音や言い回しを学ぶことができている。



特別支援学級の生活単元学習



小学部1年の日本語の授業



小学部2年の日本語の授業



小学部3年の日本語の授業



中学部3年の国語の授業

はじめに教材・教具ありきではなく、授業の目標や児童・生徒の実態に応じて教育機器を選択し、効果的な方法を選択することで、より一層児童・生徒の学力向上に寄与できると考える。